

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093700070		
法人名	社会福祉法人グリーンコープ		
事業所名	グリーンコープ グループホーム那珂川・和		
所在地	福岡県那珂川市片縄北3丁目16-18 2F		
自己評価作成日	令和3年1月11日	評価結果確定日	令和3年2月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和3年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○社会福祉法人グリーンコープは「共に生きる」を基本理念として、赤ちゃんからお年寄りまで、地域で暮らしているすべての人が、共に支えあい、育みあい、心豊かにその人らしく尊厳を持って暮らせる地域社会の実現を目指しています。○日々替わる利用者さんの対応は、迅速に手順書やミーティングで情報共有する事を心掛けています。○利用者6名の内、入院や延命治療をせず最後までどのどかで過ごしたいと施設での看取りを希望されている利用者さんが現在3名おられます。医療・家族・施設が連携、状態に応じた食事形態や昼夜の過ごし方等話し合っています。○100歳以上が2名で平均年齢は97.3歳と皆さん高齢ですが、それなりに落ち着いて過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念や介護の基本的ケアが綴られたカードを全職員が常に携帯し、定期的な読み合せなどで理念の共有に取り組んでいる。「私の暮らしまとめシート」にこだわりや支援してほしいことなどを整備し、「家族あつての入居者」と、其々の家族の思いや関りに配慮しながら、入居者と家族を一体とした支援が展開している。終末期の告知後、点滴管理で回復され終口摂取できるまでになられた入居者もあり「食べることは生きる事」と実感しながら、食卓用の椅子に座り床に足をつけて食事をとっていただき、日々嚙下体操や口腔ケアを実践している。感染対策に配慮し、短時間の敬老会を開催したり、キャラバンメイトの職員が近隣団地で開催された健康広場に参加するなど、地域交流を継続している。ワーカーズが自ら役員に立候補する環境を整え、今後は職員の夢を形にして、共に生きる地域創生を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グリーンコープ グループホーム那珂川・和(のどか)**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○職員全員グリーンコープの組合員です。○『共に生きる』を基本に、人権・接遇についてはその都度、気づいた時に、朝のミーティングで話し合うようにしています。○基本理念は職場会議等で定期的に読みあわせをしています。	法人理念や介護の基本的ケアが綴られたカードを全職員が常に携帯し、定期的な読み合せなどで理念の共有に取り組んでいる。今後は個々の職員の夢を形にして、共に生きる地域創生を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○地域自治会に加入し、夏祭り、敬老会、区の避難訓練などの行事に参加、年に1回秋祭りを開催するなど地域の方を中心にたくさんの方が来てくださいます。市役所・包括・他職種連携している事業所の職員さんも参加頂いていましたがコロナで出来ませんでした。	地区公民館で密を避けるなどの感染対策をとり、短時間の敬老会を開催している。地区区長のコスプレやダンスなどが披露され、センター便りで報告している。キャラバンメイトの職員が、近隣団地で開催された健康広場に参加するなど、地域交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○運営推進会議はソーシャルディスタンスを考え、近くの公民館を借り時短で開催。○中学生の職場体験や組合員・地域の方対象の介護サポーター講座等もコロナのためできませんでした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○同じ施設内の小規模と一緒に運営推進会議を開催しています。利用者さんがどんな暮らしを望まれ、今現在どんな暮らしをされているか率直に話かできています。その際頂いた貴重な意見は職場会議などで共有しています。	令和2年4月のみ会議を中止し、メンバーにホームの状況を書面で報告し、意見を伺っている。他4回は、密を避けて地区公民館で、家族や地域の方々、市担当者などの参加で開催している。	殆どが近隣からの入居者でもあり、運営推進会議の内容を記載したセンターだよりをセンター前の掲示版に掲示するなどの工夫で、さらなる意見の表出を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	○市の「協議体」「認知症サポーター養成講座」に積極的に協力しています。	法人が市から受託し開始した自立相談支援事業は昨今の状況から相談件数が増え、サテライト小規模多機能ホームを市からの再三の要請で開所するなど、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○玄関・部屋の鍵はかけていません。○離床センサー・ベット柵を設置する場合、家族に同意書を頂いています。○職員のストレスが身体拘束に繋がることから、朝のミーティングや職場会議でケアについて話をしています。	運営推進会議の中で、ベット柵や離床センサーの活用の見直しを報告している。密になる研修を中止し、職員には身体拘束に関する資料を配布し報告書を提出してもらうなど、身体拘束の適正化に取り組んでいる。夜間の再三のコールを受け留める職員のストレス解消に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○高齢者虐待防止マニュアルを作成し読みあわせを行い研修しています。○夜勤の職員のストレスが蓄積されないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○現在は、成年後見制度を利用されている方はいません ○必要に応じて、相談いただけるような関係は構築しています。	随時活用を支援するために、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットを整備している。法人の基本理念に基づき、多様な地域生活支援事業を展開している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○疑問点や不安に思われることは率直に話していただけるよう、関係の構築を日ごろから心がけています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○玄関を入ったところに意見箱を置いています。 ○運営推進会議・家族のあつまりなど開催時、家族の意見を話しやすいようにしています。会議の報告を職場会議・ミーティングで行っています。	コロナ禍に配慮し、家族の集りは中止している。「家族あつての入居者」と、随時状況を詳細に報告し、意見の表出を促している。これまで階下の小規模多機能利用者と一緒に出かけていたドライブは、家族の意見もありホームのみで出かけている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○自分たちで『出資・自己管理・運営』している事の確認をして、意識向上を図っています。 ○毎月の職場会議等で業務改善について意見交換をして、職員の気付きを大切にしながら話し合っています。	密を避けるために地域公民館で開催している職場会議では、活発な意見交換が行われ、欠席者には朝のミーティングで伝達している。トイレ介助を容易にするために介護用車イスの購入の提案があった。ワーカーズの意見を法人運営に反映したいと、推薦などではなく自ら役員に立候補する環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○毎年、働き方アンケート、ストレスアンケートなど行い、面接を行っています。 ○体制加算・処遇改善加算を申請し、それに伴いキャリアパスを明確にし、研修計画を作成しています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	○主催する初任者研修受講生や募集チラシを作成し、広く公募をしています。○問い合わせについては面接⇒試用期間を経て、採用しています。 ○働き方については、採用時・面接時に聞き取りを行い、ライフスタイルに合わせた働き方を尊重しています。○今年はコロナ禍ではありましたが行政に則ってジョブカレッジより5名の研修生を受け入れました。	今年度は6名が入職している。20代～70代の男女の全職員が組合員のワーカーズとして、個々に合わせた働き方で福祉センターの多様なサービスに従事し、経験を積んでいる。職員アンケートでは早退しても気兼ねなく出勤できることやヒヤリハットなどを率直に報告できる、扶養手当があるなどで働き易いと回答している。若い職員からの提案でオンラインで遠方と交流するなど、其々が能力を發揮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	○職員・利用者の気づきに対し、職場会議で接遇・言葉遣いなど再確認しています。基本の接遇と、個別性と応用について意見交換しています。	笑顔やことばを大切になどの基本ケアのスタンスの効能を分かりやすく解説した書面を全職員に配布し、理念と基本ケア8項目が綴られた携帯用カードを常に携帯している。センター長は、笑顔で入居者より小さな声でゆっくりと話しかけるように指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○今年度はほとんどがリモートでしたが、研修は事業所の年間計画・個人の年間計画を作成し、目標を立て行っています。○ケアリーダー会議の内容は毎月の職場会議で研修として共有、職場全体でスキルアップを図れるようにしています		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	○市内の施設系の協議会に参加しています。○県内の同列の施設で毎年、研修を開催し、意見交換を行い、交流も深めています。○管理者は管理者会議も毎月開催されています。今年度はほとんどがリモートでした。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○まず、利用者さんが話しやすい環境や話のきっかけを声掛けしながら作り、傾聴することから始めるようにしています。○一番大切な信頼関係構築のために、これまでの生活習慣を尊重しながら対応しています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○今まで小規模からの移行の方が多かったのですが、今年度は他施設からの入所者が続きました。ご家族には前施設での様子をはじめ、当施設入所への不安や要望などお聞きしながら、関係の構築づくりに努めています。○今年度は新規入所がなく家族とも落ち着いた関係が保っています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○本人や家族が心配されていることを把握、柔軟に対応するために他のサービス利用も含めて必要な支援を、話し合いをしながらすすめる必要があると考えます。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○『共に過ごし学び支えあう』を基本に、その人の生きてきた人生に寄り添い、一緒に泣いたり笑ったりしながら、時間と空間を共有するよう努めています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○個別性があるので、利用者さんがその家族と今までどんな関係だったのか、どんな関係が良いのか、アセスメントをとりながら対応しています。○家族が日頃から意見・要望が言える環境、雰囲気づくりに努めています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○元の地域の老人会定例会への参加声掛けや馴染みの美容室やクリニックへの送迎など家族と相談しながら対応しています。○地域で行われる行事(夏祭りや餅つき)には、積極的に参加しています。	家族との面会は前もって連絡をお願いし、居室で1名で30分をや、窓越しやベランダからの面会、遠方の家族にはビデオでの面会を支援している。現在も馴染みの美容院利用を支援している入居者もある。調査日、家族は入居者の誕生日祝いに持参した蘭の花を職員に手渡していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	○個性を大事にしながらも、縁があって衣食住を共に している関りの中で、一緒に笑ったり感動したり時 には我慢せずに小競りもできる雰囲気大事にしてい ます ○自室にこもりがちの女性には、フロアでの食事 の声掛けや気候のいい時はドライブにもお誘いし ています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○サービスが終了されても、家族がボランティアで 見える方、魚釣りに行かれ魚を持ってきてくださ る方、お祭りに来てくださる方、ほかの家族の相 談にみえる方などあります。○コロナ禍で今まで の様には行きませんが、バザーへの寄付の品を持 って立ち寄ってくださる方など今だにあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	○その人が今までのどのような暮らしをされていた のか、アセスを本人・家族からとる様にしていま す。○食事を自室で召し上がる方もあります。○ 新聞を取られている方が2名。テレビを置かれて いる方は5名。(日常的にみられている方は1名)	自分の意思を伝えられる入居者が多く、「私の暮ら しまとめシート」にこだわりや支援してほしいことな どを整備している。夜間職員の腕を掴み「淋しい」 と訴える入居者もあり、毎朝のミーティングで職員 の気づきを共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	○ライフサポートプランを導入しています。 ○夜勤時など一緒にテレビを見ながら昔話を聞 いたり、毎年1回担当を決め「私の暮らし方シ ート」を作成しています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	○主治医・家族との連携で病歴などの把握に努 めています。○バイタル・水分・排泄・体重等観察 は密にしています。排便に関しては特に気をつけ ています。○1日の過ごし方はライフサポートプ ランを活用し、心身の状態、有する力に変化があ れば都度検討しています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	○ライフサポートプランを使用しています。 ○支援に関しては、本人・家族がどんな暮らしを 望まれているか、意向を反映できるように努めて います。 ○家族の面会時や職場会議等でもその人らしく 暮らすための課題を話し合っています。	多動であるが歩行バランスなどを考慮し、床のモ ップ拭きをお願いするなど、現状に即したケアが展 開している。状況に応じた支援ができなかったこと のショックや淋しいとの思いなど、其々の家族の思 いや関りに配慮しながら、入居者と家族を一体とし た支援に取り組んでいる。	入居者と家族を一体として支援する ために、家族の役割を介護計画に 位置づけ、その人らしい暮らしの支 援を期待します。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	○個人の提供記録に短期目標を明記、その日の 様子や気づきを記録、報告し、介護計画の達成 や見直しに活かしています。 ○利用者の日々変化する対応には手順書を作 成、職員間の情報の共有をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○その人の生活に合わせた個別ケアができるように支援しています。(外出・食事・美容など)特に食事に関しては、その方の状態に応じて、食事形態等を主治医・専門医・家族・職員・食事担当職員と相談、柔軟に対応できています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○その人が住んでいた地域との関係を大切にしながらの暮らしが継続できるように支援しています。 ○シニアクラブ・美容室・地域コミュニティとの関係の継続を家族と協力しながら支援しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○訪問診療利用3名○馴染みのクリニックへの通院介助1名○家族が同行受診2名○緊急時は事業所で対応しています。通院されている2名の主治医は「最期までみたいと考えています」と言っています。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援したり、通院されていた入居者もコロナ禍で往診をお願いしている。訪問歯科で歯周病や口腔機能が改善され、嚥下に特化した専門医を受診するなど、適切な医療受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○看護師も共に働く仲間として報告・連絡・相談できる関係にあります。身体状況の変化について、共有し、必要に応じて家族・医療に連絡し異常の早期発見に努めています。○夜間、緊急時も看護師に相談できるようにしています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	○入退院時は必ず、職員が同行します。○入院時も状況把握のため病院訪問を行い、退院に備えます。○退院時には必ずカンファレンスに参加し、情報交換をしています ○病院ソーシャルワーカーとは相談できる関係づくりに努めています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○入所時に左記の内容について説明し本人・家族の意向についてお聞きし、同意書を頂いています。 ○現在2名の方が急変時入院はせず、当施設での看取りを希望されています。	入居者の平均年齢が97.3歳で、看取りの希望が多いが、もしもの時は医療機関搬入や自宅での意向もある。終末期の告知後、点滴管理で回復され、2度も経口摂取できるまでなられた入居者もあり、今後も家族や主治医と話し合いを重ね、その人らしい生き方を支援する予定である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○研修計画に沿って研修をしています。 ○身体状況については、その都度医師・看護師からの状況説明を共有し対応について学習、利用者さんがより安心できるケアを心がけています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○年に2回、消火・通報・避難訓練を行っています。 ○研修計画に沿って研修も実施しています。 ○運営推進会議でも議題に上がり、協力体制はできています。アドバイスも頂いています。○今年度、防火管理者が若手に替わりました。	年2回避難訓練を実施し、ベランダで消防車の到着を待つことを申し合わせている。近隣に緊急連絡網で協力を要請できる関係が構築され、福祉避難所として食品や消毒グッズを備蓄し、家族の連絡先や服薬情報を記載した緊急持ち出し書面を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○研修計画に沿って研修をしています。 ○接遇や人権については毎月の職場会議などでもよく話し合っています。「その人に寄り添い、受け止め、大きな声を出さない。適度な距離感を持ち、言葉は丁寧語。」基本に戻ることを職員間で確認しています。	基本ケアの笑顔やことばを大切に、氏名で呼称している。日頃は教職だったことを忘れていますが、若い職員には「研修をまとめて報告書を出しなさい」と先生モードになる入居者もあり、入居者のプライドに配慮した声かけを行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○その人の個性が引き出せる施設となるために、寄り添う事を基本に『個別ケア』『待つケア』を心がけて、思いや希望が表現できるような声掛けを実践しています。 ○気兼ねない空間として、最近では、利用者同士の関係づくりを基本に考えるようにしています。部屋に入られても「寂しかぁー」と出て来られる方もおられます。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○決まったタイムテーブルはなく、その人の生活に添った支援ができるようにしています。○起きる時間も寝る時間もまちまちです。○好き嫌いにもできるだけ添えるようにしています。○夜間によく起きられる方の家族は、夜中おなかがすくだろうとおやつを定期的に持参されるので適時召し上がって頂くよう配慮しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○洋服、ご自分で決められる方は1名 ○行きつけの美容室に行かれる方1名 ○有償ボランティアでの美容は4名 ○美容師の家族の方の理容1名です。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○グリーンコープの新鮮で安心な食材が中心です。 ○お茶碗を拭いてくださる方が3名あります。その内1名は洗ってくださいます。気分の乗らない時は無理はされないように配慮しています。	自室でゆっくりと食事をされる方もあるが、職員の見守りや声かけで、個々の状態に応じた食形の食事を、其々のペースで完食している。季節の料理や誕生日のケーキを楽しんでもらいたいと食卓用の椅子に座り床に足をつけて頂き、嚥下体操、口腔ケアを日々実践している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○食事は1500kcal水分700mlを基準とし、利用者さんの状況によって、量・食事形態(おかゆや刻み食・トロミ食等)にもすぐに対応できています。 ○水分をとって頂く工夫もしています(手作りゼリー・緑茶)○食担の職員は食の研修を率先して受講しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○その方の状況に応じて口腔ケアを行っています。 ○訪問歯科を利用して定期的にケアをされている方もいます。 ○昼食前の口腔体操・毎食後、就寝前の清掃・入れ歯殺菌を行っています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	○ご自分でトイレに行かれる方は2名。○尿漏れ等で、リハビリパンツの方が5名(尿意便意がある方含む)○定期的に誘導を行い、トイレでの排泄を促す支援をしています。○定期的にトイレに行きパット交換やウォシュレットや清拭をすることで当施設入所後尿路感染による発熱がみられなくなった利用者さんがいます。	排泄が自立されている方もあるが、日中は職員の誘導などでトイレでの排泄を支援している。イライラの原因が水分不足や排泄の問題ではないかと、記録を確認している。夜間のみ、紙オムツの方がおられるが、パッドや紙パンツを活用しながら失敗しても、おおらかに受け止めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○ご自分でトイレに行かれる方は2名。○尿漏れ等で、リハビリパンツの方が4名(尿意便意がある方含む)○定期的に誘導を行い、トイレでの排泄を促す支援をしています。○定期的にトイレに行きパット交換やウォシュレットや清拭をすることで当施設入所後尿路感染による発熱がみられなくなった利用者さんがいます。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	○入浴は1人ずつ入って頂いています。○最低週2回としていますが、状況に合わせて入って頂いています。○入浴の際、自身の道具を使われる方がいますので、尊重しながら、気持ちよく入って頂けるように配慮、声かけもしています。	週2回、体力に配慮し2人体制で短時間での入浴を支援している。皮膚の状態や家族からの要望で回数を増減したり、尿路感染に留意し、日曜日も入浴を支援することもある。入浴を楽しんでもらえるように、丁寧な声かけをしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○起床・就寝の時間は、決めていません。 ○自身の部屋を中心に過ごされる方は1名です。 ○眠剤服用される方は2名ですが、最近では飲まずに休まれることもあります。○コロナ禍で1Fとは分離、2Fフロアで過ごされています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○受診時・往診時は、同席し様子の報告や薬の把握に努めています。○薬の管理は基本看護師の仕事とし、作用・副作用について、学習しています。○正確な服薬支援のため確認・声かけを重ねて行い、誤薬の予防に努めています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○外出することで気分転換になるドライブは、皆さん楽しみにして下さっていますので、状況を見て小規模の方と一緒に出かけさせて頂いています。 ○緑茶をお出しすると皆さん喜ばれ、よく飲まれています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○家族がみえて外出される方が2名○家族と病院に行かれる方が1名。○ドライブに行かれる方6名。人のいない所に状態を見ながら行きました。○家族の面会は定期的に行われています。コロナ禍、連絡の上1名30分、家族との外出は禁止と制限させて頂きました。○地域の夏祭りには職員と一緒に出掛け、縁日気分を味わっておられます。とても楽しそうです。地域のシニアクラブの方も声を掛けて下さいます。	今年は近隣の神社に初詣をしている。恒例のドライブは事前に家族に相談の上、了解いただいた入居者で出かけている。車窓から外を眺めたり車から降りてお茶を楽しんだり、好評である。コロナ禍に配慮し、参加していた地域行事は中止となり、家族との外出は禁止としている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○ご家族の希望で一万円程度お持ちの方もおられますが、管理はしていません。○定期的な受診の際、コンビニでお買い物を楽しまれている方がおられます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○家族からはがきが届く方が3名います。○遠方の娘さんと携帯のラインを通してビデオ通話を支援している方もいます。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○落ち着いた空間を演出できるように努めています。季節感が出るようなお花や飾り付けをして話題づくりをしています。○臭いにも注意をし、換気や原因の除去に努めています。○冬季は乾燥に留意し各部屋に温湿度計を設置、濡れタオルを掛けて、風邪予防に努めています。○特に夏や冬は早めに温度調節をしています。○今年はコロナのため残念ながらテーブルクロスはやめ、消毒を徹底しました。	福祉センター2階に開所し、1階の小規模利用から入居した方も多いが、感染防止のため階下との交流を止めている。テーブルやイス、テレビやソファが設置された居間は明るく、天井にロフトが設けられ、広いベランダから街並みが一望できる。季節の花が活けられ、入居者の誕生日に家族が持参した蘭の花も飾られている。空調が管理され、ゆったりと寛げる空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○座る場所などご希望を伺って決めています。ソファの位置など模様替えも行っています。○自然に座る場所が定着、お互いを尊重されている様です。○昨年のご寄付により大きな絵も飾りました。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○居室は本人・ご家族の希望で、自由に荷物を持ってきて頂いてます。○テーブルタイプのコタツを持ってこれ以前の自宅と同じように過ごされている方もいます。○娘さんが作られた粘土細工の置物を季節ごとに変えられている方もいらっしゃいます。	居室入り口の飾り棚には粘土細工の置物などグッズが飾られ、入り口に表札が掛けられている。どの居室も清掃が行届き、窓を開けて換気をしている。家族の写真や孫の習字を飾ったり洋服かけに衣類が並び、筆筒やテレビ、椅子が持ち込まれるなど、家族の居心地良く暮らしてほしいとの思いが伺える。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○自立支援の立場から、生活リハビリを大切にしています。排泄も全員トイレで行っています。○利用者の気持ちを聴く。感じる。予想する。そして安全に自分らしく、のんびりと楽しい余生を過ごして頂くための支援をしています。		